

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490800396	事業の開始年月日	平成29年12月1日	
		指定年月日	平成29年12月1日	
法人名	株式会社ソラスト			
事業所名	グループホームソラスト西柴			
所在地	(236-0017) 神奈川県 横浜市 金沢区 西柴 2-28-8			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	6名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	令和1年6月28日	評価結果 市町村受理日	令和1年11月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西柴は、なんといっても入居者様のADLが保たれている事が一番の自慢です。古い方は10年以上にもなります。6人という、少人数ならではの難しさはありますが、みなさん穏やかに過ごされています。ホームの建物も老朽化してきましたが、それを感じさせない作りです。一軒家なので、むしろバリアフリーで、階段も手すりをしっかり掴んで上り下りされます。地域や近隣の方にも恵まれ、ちょっと足を延ばせば、きれいなお花畑があり、みかん狩りが楽しめる農場もあります。天気の良い日には、青い海がきれいで、遠く富士山を眺める眺望も自慢できます。また、商店街に足を延ばせば「さくら茶屋」にてランチ、自治会館で、行事を楽しむ事ができます。つくづく環境に恵まれていると感謝しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和1年9月25日	評価機関 評価決定日	令和1年11月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線「金沢文庫駅」からバスで約4分、バス停「西柴四丁目」で下車し、徒歩数分の閑静な住宅地にあります。高台に位置し、建物の東側は果樹園や畑になっています。東京湾を望み、眺望に優れた環境です。運営法人は医療・介護・保育業界などを運営している株式会社です。

<優れている点>

事業所理念「お互いを認め合って、彩りある生活を送りましょう」を目標として、自分らしく生活が送れるよう支援を心がけています。長く勤務している職員が多く、互いのコミュニケーションも良好です。「家庭的な、明るく楽しいホーム創り」を目指し支援しています。入居期間が長く、且つ自立した生活をしている入居者が多くいます。天窓のある、白を基調とした壁の明るい室内のもと、床暖房を完備したフロア、滑り止めのついた靴下で毎日生活しています。職員が調理する美味しさに拘った家庭料理を楽しんでいます。

<工夫点>

利用者の「自立した生活」を大切にしています。利用者は、安全な手摺付きの階段で、2階の居室と1階のリビングを行き来し、脚力の維持に取り組んでいます。トイレへの移動でも出来るだけ車いすを使わず、多脚杖を使用して移動し、自分で歩くことを心がけています。地域社会との連携に優れ、運営推進会議や避難訓練などに近隣の人が参加して、協力してくれています。自治会とも良く連携し、敬老会などに参加して楽しんでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームソラスト西柴
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念を記したリーフレットもありますが、事業所独自の理念を作り、額に入れて事務所に掲げています。毎日の業務の引き継ぎ時、意見を交換し理念に反する行為がないか、確認し合っています。	事業所理念「お互いを認め合って彩りある生活を送りましょう」は、管理者と職員が話し合って作っています。毎月の会議で「理念」を再認識し、行動指針として支援に活かし実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の散歩を通じて、行き交う人々との挨拶をこころがけています。畑の収穫物を下さる方もいらっしゃいます。	自治会に加入しています。運営推進会議にも近隣の人が毎回参加しています。自治会主催の敬老会や文化祭などに参加し、イベントを楽しんでいます。西柴中学校の職業体験授業にも協力し、毎年1年生と2年生が来所し、実習しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年、地域の中学校からのインタビューを受け入れています。去年は職業体験は受けられませんでした。入居者の健康状態が許せば、受ける心つもりです。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、地域の方や地域包括の主任ケアマネさんが参加して下さり、貴重な意見を頂いています。議事録を作成し、スタッフミーティング時や、時には本社の方へ送り、検討し合っています。	隔月に開催しています。家族や後見人、地域包括支援センター職員、民生委員など近隣の人が毎回参加して情報交換しています。事業所の活動内容の報告、地域行事の情報交換などを行っています。防犯カメラ設置の件や、ボランティア行事の件なども話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員の来訪が2ヶ月に1回あります。市の高齢・障害課に報告をあげて下さっています。またグループホーム連絡会の会合に、市役所の方が出席され、情報を交換し合っています。	区の担当者とは生活保護を受給している入居者の件で連携しています。区グループホーム連絡会に参加して情報交換しています。市や区で実施される介護に関する各種の研修会にはできるだけ参加するようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	代表者及び全ての職員が、身体拘束適正化委員会の研修を通じて、入居者の尊厳を尊重したケアを心掛けています。	身体拘束をしないケアの実現に向けてマニュアルを完備し「身体拘束適正化委員会」を年4回実施しています。職員は身体拘束とされる様々な場面での事例や、言葉による拘束なども法人のパソコン利用の「Eスクール」などで学び、理解を深めて介護に活かしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、会社のe-スクールの受講を終えています。毎日の引き継ぎに、身体虐待・精神虐待に値する事柄はないか、みんなでチェックをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、成年後見制度を必要とする方に、後見人を頼んでいます。隔月の運営推進会議には、家族、後見人、民生委員、包括のケアマネも出席され、様々な地域の事業について学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度は新しい入居者や、退居される方はいませんでした。しかし、制度の改定があり、家族に説明を行い、交付しました。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	隔月の運営推進会議では、家族の意見が忌憚なく発せられる場です。また、電話やパソコンメールで、意見交換、情報を共有し合っています。	家族の面談時や、毎回3～4組の家族が参加する運営推進会議の場で、要望や意見を聞いています。毎月入居者一人ひとりの生活の様子や連絡事項を記入した「ご報告」を写真を添えて家族に送付し、意見をもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、日々の業務の中で、職員の意見・要望を聞く様に努めています。また、各自職員と面接を行う様に努めています。	毎月の「スタッフミーティング」と共に、日常の会話を通して職員の意見や提案を聞いています。支援に関しては、気づいた職員が直ぐに話し合い、検討しています。昼食時の席替えや、民謡ボランティア行事などに活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、毎月「サンクスポイント」や、「オヤツ」「入社バースディ」等、職員に還元できるシステムを構築し、報酬が平等に配布される様に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社における、研修やセミナー、またパソコンやスマホでいつでも学習できる「ソラスクール」というシステムが導入されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は、毎月、管理者トレーニングを品川で開催しています。その際、ネットワーク作りも兼ねた勉強会を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学はいつでも、何度でも受け入れております。家族の要望、また本人の希望、思いを職員と一緒に確認し、ケアに齟齬が生じない様不安を共有し、安心に変わる様、努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に至る、家族の思いをよく聞き、困っていること、不安な事に耳を傾け、職員と一緒に受け止めていく様、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームに入居する前の本人の状況をよく聞き、何が足りていて、何が足りていないか、他のサービスも受ける必要があるか、ケアマネのプランに反映させて見極めたいと思います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日、掃除や食器拭き、洗濯物たたみ等、本人ができる事を奪わないよう、職員と一緒にお願いしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議の場で、家族の情報共有に努めています。また、生活援助記録を必ず閲覧して頂き、関係を把握して頂いています。電話でたりない物を頼んで届けて頂く様、お願いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がよく買い物に行っていたというスーパー、お墓詣り、お花見等にお連れしています。	入居時のヒアリングや、ライフストーリー情報、本人との風呂や散歩での会話により馴染みの場所・人などを把握しています。墓参りやグリーンファーム、病院への付き添いなどに同行支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの席替えや、入浴の順番等、利用者の関係を考慮しながら声かけしています。また、散歩の声かけも平等に行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用（契約）が終了した方との連絡は、守秘義務の観点から、こちらから行っていません。相談があれば、できる限り支援いたします。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの個性、思いを尊重し、集団生活になっても、各々の自由な生活が実現できるよう、努めていきます。	入居者からは、日常の会話などで思いや意向を把握しています。散歩や入浴時など1対1の場面は本音の話を聞く機会として大切にしています。夜間の落ち着いた時間帯に聞くこともあります。意思表示が困難な入居者からは表情やしぐさで汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報や、介護サマリーを通じて、本人の状況把握に努めていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの状況、年齢に応じた身体状況を把握し、できる行為、書くことだったり、歩くことだったり、なるべく継続していける力を、大事にしていきたいと思っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎回スタッフミーティングで、入居者の心身状態を確認し、介護計画に盛り込んでいます。	介護計画は毎月の「スタッフミーティング」や定期的なモニタリングにより、6ヶ月ごとに担当者会議を経て見直しています。介護記録や本人の希望、家族との面談結果、医師、看護師の意見なども加味して作成し、本人や家族の承認を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎回、生活援助記録にその日の状況を記録し、職員間で情報の共有に努めています。実践で、不具合が生じた場合は、介護計画の見直しも含めて、ケアも見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状況、心の状態を把握し、安定した毎日を提供できる様、努めていきます。また、外からの支援やボランティアの方を、積極的に受け入れていきたいと考えます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の新聞を活用し、近くで行われる行事に参加し、日々楽しんで頂きたいと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週に訪問診療と薬のお届け、毎週訪問看護師と訪問歯科が訪れます。また、緊急の場合は、看護師の連絡を通じて訪問医師につながる様に支援しています。	隔週に内科医、毎週歯科医の訪問診療を受けています。毎週看護師も来訪し、利用者の状況を把握して、服薬など職員と連携して入居者を支援しています。緊急の場合は、看護師を通じて協力医と連携し、対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週水曜日、看護師が訪問され、介護職員からの情報をもとに、利用者を見舞われます。本人からの声、身体の状態を確認できます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院に備え、救急の際の必要な情報をカードで用意し、安心な治療に役立てる様にしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療連携を取り入れたことによって、重度化に備えた文書の取り交わしを本人、家族と行い、終末期に備えています。	重度化や終末期の対応については、本人・家族に説明し、十分話し合いをして同意を得ています。同意した内容は事務室に掲示し、突発的変化時の職員への指針としています。看取り経験者は管理者のみですが、継続して職員への研修を実施しています。	職員の終末期ケアの研修は本部作成のパソコンによる「E-スクール」研修を主体に実施しています。今後さらに職員が集まった研修や医療機関との連携研修の実施も期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変だけでなく、地域の方にも活用して頂こうと、AEDを玄関に備えています。新しい機械になったため、使い方の講習を予定しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年は、5/17に消防や、ご近所の方も参加され、避難訓練を行いました。夜間という設定で、地域の方から門の開錠を行ってもらおうという確認を得る事ができました。	夜間の火災を想定した避難訓練を近隣の住民の協力を得て実施しています。災害時の行動の優先順位を事務所に掲示し、職員は理解しています。災害備蓄品は食料や水を台所の床下収納や棚に置き、食料の賞味期限は備蓄品リストで管理しています。	地震などの災害が起こった場合、事業所の立地から防災拠点になる可能性もあることを考慮し、防災用品や備蓄品の使い方、近隣住民との連携を更に深める活動も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	6人という少ない人数なので、みなさん、一人ひとり自尊心が高く保たれています。それをどう、損なわない様支援していくか毎日、模索しています。	入居者は姓で呼ぶことを基本とし、年長者として尊重しています。居室のドアは明り取りのはめ込みガラス小窓があり、人の気配を気にする入居者にはドアに目隠しをするなど、プライバシーに配慮しています。また、入室の際、ドアは必ずノックをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団生活ですが、個人の生活習慣を大事にする様、心がけています。また、言いたいことが言えるような雰囲気作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のペースを大事に、時間を気にせず、過ごされてほしいと思います。レクリエーションもなるべく、押しつけないように声掛けしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節毎、箆笥の衣替えをスタッフと一緒にを行っています。家族の支援を受け、新しい洋服も購入されています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は、食事の前に献立を紹介します。メニューも野菜中心で、洗って頂いたり、切ったりして頂いております。毎回、皆さん、食事は完食されます。	食材は外部委託で1週間ごとに届きます。職員が調理し、入居者が手伝っています。毎食前に体操や口腔ケアの「パタカラ体操」をしています。個々の量を把握した盛りつけと美味しい食事で全員が完食し、食後は自ら下膳をしています。誕生日などには寿司など特別メニューにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は、決められたカロリー計算された物が毎回、届きます。食べる量や水分量は、記録しています。その時の状態に応じた声掛けをさせて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週、訪問歯科が訪れて義歯の不具合、汚れをきれいにして頂いています。また、毎食後、口腔ケアの声掛けにみなさん応じて下さっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間でも尿意を感じたら、すぐに皆さんトイレに行って頂いています。足の不自由な方にも、毎回トイレの声かけを行い、自分の足で行ける様、歩行器や4点杖での介助を行っています。	排泄状況は職員が把握し、チェック表を作成しています。入院中、おむつだった入居者が退院後リハビリにより自立し、布のパンツに戻ったケースもあります。夜間のみポータブルトイレを使用する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝の体操、掃除、散歩等、できるだけ身体を動かして頂くよう、声かけしています。朝の10時には、ヨーグルトを毎回提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	なぜか皆さん放っておくと、入浴には積極的になりません。なので曜日を決めて入って頂いております。入るとどなたも笑顔になるのですが。時間に追われずゆっくりと、入って頂いております。	家庭のような風呂で、週に2～3回、出来るだけ自立し、介助は背中を流すなど最低限にしています。入浴を嫌うような人には、臨機応変に日や時間を変えています。また、好みのシャンプーなどを持ち込み、ゆっくり入るようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの思いのまま、自室でTVを見たり、ベッドで休んで頂いたりしています。リビングにはいつもTVがついていますが、時には、演歌や歌謡曲、音楽を流しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の内容は、薬情報によって、職員が把握しています。誤薬・落薬がない様、一人ひとり飲み終わるまで、そばで見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自立心が強い方には、声かけでお茶の用意や、下膳をお願いして、皆さんのお世話をお願いしています。役割を持ちますと、嬉しそうにこなして下さいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	レクリエーションでは、毎年、八景島に行きます。地域の行事の顔出しには努めていますが、普段は行けないような遠方へは家族の支援があれば、可能です。	日常の散歩は、入居者一人に職員一人が付き添い、東京湾を望む散歩コースをゆっくり楽しんでいます。レクリエーションでの外出もあり、事業所の車とタクシーを利用して毎年八景島シーパラダイス紫陽花祭りに出かけています。また、カラオケなどに出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者は、自分で金銭管理は難しいため、管理者や職員と一緒に外出した際に、好きなおやつや、果物、日用品等を購入できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者は、事務所の電話はいつでも、使用できます。職員が番号を代わりにかけ、あとは会話を楽しんで頂ける様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの照明は明るさも変えられます。職員によってトイレもお風呂も、毎回きれいに掃除がされています。リビング、各居室、廊下の温度管理はいつも気をつけています。また、白い壁には季節の飾りをこころ掛けています。	天窓・二重サッシ・床暖房付きのリビングや廊下は明るく、温度管理がされ快適です。リビングにいる時間が多いので、席替えをして気分転換を図っています。室内ではスリッパを履かず、自宅にいる感覚で、滑り止めのついた靴下で過ごしています。毎朝9時に入居者と職員で一斉に掃除をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有のリビングと、各居室は、いつでも好きな様に行き来できます。リビングは狭いため、ソファを置くのがやっとなのですが、気の向くままにご利用頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、できるだけその方が使用されていた家具や、洋服をお持ち頂いています。仏壇があるお部屋もあります。	居室のクローゼットは作り付けで、エアコン完備です。家具や仏壇、テレビなどを持ち込んで家庭の自室のように過ごしています。植物を育てたり、絵や写真を飾るなど個性を出しています。自動栓の洗面台が各室にあり、朝の洗面などは居室で行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	認知の方がほとんどなため、話し言葉より、紙に書いておいた方が記憶される様です。そこで、トイレや居室に張り紙をさせて頂いております。		

2019年度

事業所名 グループホーム ソラスト 西柴

作成日： 令和 1 年 11 月 11 日

目標達成計画

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		医療連携として新たに、緊急時における対応方法の同意書を交わす事ができた。スタッフ全員に周知させる事、支援すべきケアを明確にさせる事。	ターミナルケアに対する、スタッフの積極的に取り組むところを養う。	看取りにおけるケア、心の在り方の研修プログラムを立てる。	6ヶ月
2		地震や台風、天災に対する設備がまだ不十分。特に電気が止まった時、どう凌ぐか。	災害時、地域の方と連携して避難誘導にあたる。また、避難場所として地域の方を受け入れられる程の水・食料・簡易トイレを用意する。	倉庫、物置を整理する。少しずつ物資を揃えリストを作る。 発電機を用意を検討する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月